

令和6年度 東京都立小台橋高等学校 学校経営計画

1 目指す学校

(1) スクールミッション

生徒一人一人が安心して学ぶことができる時と場を提供するとともに、志をもって入学した生徒に対し多様で柔軟な教育を実施し、不確定な未来を生き抜くための幅広い総合的な学力を身に付けた人材を育成します。

(2) アドミッション・ポリシー

- 本校の教育の特色を理解し、それらを生かした学習活動に取り組むことができる生徒
- 入学後の高校生活とこれからの人生に志（夢や希望）をもっている生徒
- 自他を尊重し、かつ責任ある行動に移せる生徒

(3) カリキュラム・ポリシー

- 生徒一人一人のウェルビーイングに焦点を当てる
- 多様で柔軟な教育活動を実施する
- 総合的な資質・能力を身に付けさせる

(4) グラデュエーション・ポリシー

- 新たな環境で、学びや勤労にチャレンジする生徒
- 良き社会の一員として自立する生徒
- 自ら調べ、自ら考え、自ら発する生徒

(5) 育成すべき資質・能力（6つの力）

- ① 基礎的・基本的な能力
- ② ビジネススキル
- ③ 豊かな感性と表現力
- ④ 知識・情報の活用力
- ⑤ 他者と協働するための資質
- ⑥アントレプレナーシップ

2 中期的目標とその達成に向けた方策

(1) 学校経営

① 学校経営

組織としてコンプライアンスの意識を高め、教職員がチームとなって業務を遂行する。

本校のグランドデザインを共有し、新しい学校づくりを軌道に乗せる。

② 人材育成、授業力向上、研修、ライフ・ワーク・バランス

担当部署による研修によって教職員全体の指導力を高める。特に生徒の学びのコーディネーター、ラーニング・オーガナイザーとしての力の育成に努める。

教職員が生徒のロールモデルとなる。

③ 施設・設備の整備

施設・設備を充実させ、長期的な使用・運営計画を作成する。

図書館は情報活用を中心とする。

④ 予算編成

持続性のある予算計画・執行を行う。

⑤ ステークホルダーとの連携

広く本校の使命を理解してもらい、地域の支持を受ける。学校運営連絡協議会から協力的で有益な助言を得る。教育実習を含めた卒業生の活用、同窓会の在り方について方針を出す。

儀式的行事の意義を踏まえ、厳粛な式典を実施する。

(2) 募集・広報活動

WebページやSNSを活用した広報活動を行う。生徒や保護者・地域を巻き込み、募集広報活動を工夫して行い、毎年の応募倍率を1.2倍超とする。

入選方法を工夫し、転編入者を含めて入学者のマッチングを行う。

(3) 学習指導

① 教務・教育課程の編成

課題研究を中心とした学びの体系や、外部との連携や学校外の学修を取り入れるなど、特色のある教育課程を作成し、カリキュラムマネジメントを行う。

② 学習指導、学習評価

スクールポリシーや「総合的な子供の基礎体力向上方策」を踏まえ、特色ある学習指導計画を作成し、「伸び率No.1」を標榜して学力・体力の向上を図る。時間割や考査・評価の工夫をする。

個々の生徒の学習成果を学びのポートフォリオとして蓄積し、調査書とともに進路指導に活用する。

(4) 進路指導

キャリア教育基本計画に基づき、課題研究を生徒の学びの核とし、総合学科高校として模範的なキャリア教育を実践する。

生徒のマッチングを重視した進路指導の方法を確立する。総合選抜型入試などの総合学力を問う入試制度を活用しながら、「小規模だが面倒見のいい大学」をメインターゲットとしてマッチさせ、国公立大学や中堅私立大学に合格者を出す。

(5) 生活指導

生徒の成長を促す教育活動の一環として生活指導を行う。学校生活の満足度、学校への定着率をともに約8割とする。

体罰・いじめ・暴力ゼロ、自殺ゼロを目標に、外部機関と連携を取りながら、すべての教育活動を使って計画的・横断的に予防・対応を図る。

(6) 特別活動・部活動

教育活動の一環として効果的で特色のある行事を実施する。特に学習探究成果発表会的な行事を最大のセールスポイントとする。また、体育祭的な行事と文化祭的な行事については、生徒のウェルビーイングに資するとともに、娯楽に墮することのない高い教育効果をもたらす工夫をする。

広報活動に取り組む有志やボランティア活動を行う団体を課外活動として活躍させる。部活動は部活動指導員を活用し、教員が負担を感じない工夫をする。

(7) 健康づくり

外部機関と連携を図りながら計画的に保健指導、カウンセリング、特別支援教育、体力づくりを実施する。

3 当該年度における取組目標とその達成に向けた具体的方策

(1) 学校経営

① 学校経営

目標：個々のコンプライアンスが学校改革レベルになる。それぞれの分掌業務が他の分掌に好影響を与える。学校全体が互いに切磋し向上するチームになる。引き続き特色ある教育活動を計画する。選択科目開講と課題研究の開始に伴う取組を形式知化し波及させる。

方策：次期中期計画の策定と実施。自己申告制度の活用。ミドルリーダー研修・OJTの実施。学期ごとの分掌の実績と課題のまとめの実施。特色化PTによる提案。学校要覧の作成。教科・科目をはじめとする教育活動の取り組みについてまとめた紀要の作成。

② 人材育成、授業力向上、研修、ライフ・ワーク・バランス

目標：ラーニング・オーガナイザーを育成する。個々の授業力が高水準になる。個々の業務遂行力が高水準になる。本校スタッフ全員が生徒のロールモデルになる。「チームがワークする」組織になる。

方策：校内研修・OJTの実施。先進校視察の実施。国・都、民間の研修参加の促進。授業観察・授業見合の実施。年休取得日数・勤務時間制限目標の設置。学校業務支援員の活用。

③ 施設・設備の整備

目標：学びやすい環境が作られている。安心安全が確保されている。居心地が良い空間になっている。図書館の利用頻度が高い。

方策：学習環境の整備・保全。本設校舎移設後の活用とグラウンド改修工事の設計。居場所空間の確保。図書館活用指針の共有。

④ 予算編成

目標：予算執行が滞りなく適正である。予算編成作業が効率化できている。予算が効果的に編成されている。

方策：自律経営予算の執行と予算化。

⑤ ステークホルダーとの連携

目標：本校関係者の訪問数が増加する。地域の方の評価が高い。出席者の好評を得る。生徒の帰属意識が向上する。

方策：学校運営連絡協議会、学校評価、防災教育推進委員会、その他外部評価者における意見交換。授業公開の実施。地域への情報配信。ゼミや課題研究での地域連携、授業及び部活動による地域献活動の計画的実施。入学式卒業式の円滑実施。綿密な実施計画の作成。

(2) 募集・広報

目標：教育関係媒体を中心に、様々なツールを積極的に活用して広報する。教育関係者の視察訪問を積極的に受け入れると共に、校外の先進事例収集を推進する。説明会来場者を増加させ、入選倍率を確保する。選抜した受検者が本校に適合している。

方策：学校見学会・説明会の開催。

外部説明会への参加。中学校・適応教室・フリースクール・塾等の訪問。Web、SNS、オンラインを活用した広報を展開。広告記事の配信。学習成果の広報。

(3) 学習指導

① 教務・教育課程の編成

目標：平成7年度実施に向け教育課程を作成する。全ての教職員が履修登録システムを理解し履修登録の指導ができる。履修・学業成績・出欠席等における生徒の現状が把握できる。

方策：グラウンドデザインとシラバスによる指導目標の共有。教科主任会の開催。校務支援研修会・OJTの実施。

② 学習指導、学習評価

目標：教科・科目においてルーブリックの完成度を高め、観点に応じた学力向上を図る。体力テストで東京都平均とする。生徒の成長を複数の方法で評価する。生徒の自己肯定感の上昇。

方策：年間学習計画とルーブリックの作成。伸び率の定量的な報告。教材の研究と開発の奨励。定性的評価活用方法の研究。キャリアパスポート活用。肯定的評価の積極的活用。

(4) 進路指導

目標：「小台橋モデル（課題研究を中心とした学びの体系）」を完成する。将来設計によって生徒の満足度が上昇する。各ゼミが活性化する。生徒のマッチングを重視する。総合選抜型入試に対応する。国公立大学進学に対応する。

方策：地域と連携した外部人材の活用。体験的な学習の実施。FD関係の学習計画の完成。上級学校体験、学問研究の実施。模試、夏季講習の実施。模試結果分析会、進路面談等の情報共有のシステム構築。

(5) 生活指導

目標：人間関係のトラブルが少ない。学校生活が安心・安全と言える。心の成長（生活習慣、協働資質、ビジネススキル）が促進されている。学校生活の満足度、学校への定着率が高い。交流プログラムが未然防止につながっている。道徳教育が充実する。

方策：生活支援体制の再構築。OSLの周知・ルール違反未然防止の徹底、交通安全指導・マナー指導の実施。交流プログラムでの暴力・いじめ・自殺の未然防止。道徳の年間ホームルーム指導計画への位置づけ。人間と社会の実施。

(6) 特別活動・部活動

目標：生徒のチームワークができています。ホームルームが居場所になる。生徒会活動が活性化する。生徒の自助・共助・公助の意識を高めている。校内で授業以外に学習する生徒が増加する。外部交流や活躍をする部活動が出現する。ボランティア・勤労者が増加する。

方策：各行事の実施要項作成。年間ホームルーム計画作成。校内美化活動の取組推進。生徒会活動における安全活動や地域貢献活動の実施。避難訓練・防災教育の実施。自習室やゼミ室など学習の場の提供運営。オンライン学習の活用促進。部活動年間指導計画の作成。ボランティア・就職支援策。

(7) 健康づくり

目標：生徒が痛み、悩み、迷い、困り度に応じて相談ができる。生徒の居心地の向上を図る。医療・福祉・警察等隣接領域や外部と連携し橋渡しする。教育相談的な課題の最終解決がなされる。

方策：教育相談部を校内のセンター的機能とする。外部連携体制の整備。見立てに基づき計画し解決するための教育相談委員会の実施。居心地向上プロジェクトの活用。校内別室指導推進事業の活用。「校内居場所カフェ」の設置準備。交流スキル・レジリエンスの向上推進。

(8) 重点項目及び数値目標

チャレンジスクールの使命である、不登校、転退学生徒の減少を目指し、以下の重点項目に取り組む。

(ア) 学校経営

◎すべての教職員が、常に生徒の安全、業務の改善・効率化を検討し、昨日よりもプラス1の前進を積み重ねる努力をする。教職員一人一人のライフ・ワーク・バランスの実現に取り組む。

*年休取得15日以上、校内諸会議時間50分以内、定時退勤日、勤務時間外の在校時間の指導と自己管理の推進。

(イ) 募集広報

◎説明会来場者が増加し入選倍率を確保する*。

*学校見学会期間（7月から9月）、学校説明会期間（10月から11月）、願書配布期間（12月から1月）で中学3年生の実来場者数をそれぞれの期間で合計360組以上とする。中進対倍率を1.1倍、入選応募倍率を1.2倍とし、事故0で入選業務を完遂する。

*応募倍率1.2倍、学校説明会来校者数1,000名以上、ホームページ更新等情報発信年間200回。

(ウ) 学習指導

◎各教科・科目において、「学びなおし」の手だてを工夫し、生徒それぞれの学力向上を図る。誰一人取り残さないための学習支援を行う。

**生徒による授業評価満足度80%、教員相互の授業参観年間2回以上、ICT機器・学習支援ソフト活用等の授業力向上に関するモデル授業各学期実施、単位取得率向上、年間中途退学者率減少、学校外学習単位認定の促進。

(エ) 進路指導

◎多様な進路希望に応じた進路指導の充実を図る。「小台橋モデル（課題研究を中心とした学びの体系）」が完成する。

**一人一人の生徒に寄り添った指導を工夫する。進路決定率75%を目指す。

(オ) 生活指導

◎学校生活の満足度、学校への定着率が高める。

***学校に満足している生徒が8割になる。学校に定着している生徒が8割になる。個々の生徒理解を進め、基本的な生活習慣確立の支援。問題行動の未然防止（体罰ゼロ・いじめゼロ・暴力ゼロ、自殺ゼロ）、外部団体・人材の発掘と連携強化を図る。

(カ) 特別活動・部活動

◎運動系文科系問わず、放課外活動の中で楽しみや喜びを見つけ、仲間とともに達成感を味わう。

**部活動加入率60%以上、学校行事満足度80%。

(キ) 健康・保健指導

◎生徒一人一人が安心して学校生活を送れる居場所を提供する。多様なニーズに対応できる教育相談体制を整える。

***教育相談に資する勉強会、研修の充実。外部機関と連携した相談体制の整備・拡充。チャレンジスクール間での情報交換・連携の推進。